

## 『遣わされて行く者の姿』 マルコ6:7-13

…それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。

6:7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、

6:8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、

6:9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。

6:10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。

6:11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。

6:12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、

6:13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。

## ○序論

今日お読みした箇所の子ルカによる福音書にある平行記事では、イエスさまのこのような言葉が記録されています。

10:3 さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。

そう言われて、押し出されたならば、普通は不安と怖さの思いが先立つでしょう。けれども弟子たちは、そして宣教・伝道者たちは立ち上がって遣わされて行ったのです。

その姿をこの聖書の中に見、またぜひ数々の信仰者・伝道者・そして働き人の証も見てほしいと願います。

## ○本論

### I. 主の重荷をあずかる

6:7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、

わたしたちがよく知る12弟子たち。

そんな彼らはまだキリストの十字架なく、復活なく、そしてペンテコステの体験もない時に、ユダヤ各地に福音を伝えるべく遣わされるために、まず集められました。

ある意味ではいきなりに見えます。けれどもここには順番がちゃんと踏まれているのです。

先に多くの弟子たちの中から12人が選ばれていました。

その彼らは、そばにいてイエスさまの宣教の旅路で寝食を共にし、特別に御言葉の説き明かしを聞いていました。

そして今、彼らは遣わされる目的のためにまず集められたのです。

それは、二人ずつ遣わすために、そして彼らにけがれた霊を制する権威を与えるためでした。

マタイによる福音書では、「汚れた霊を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった。」とあります。

これらのことは、イエスさまが、各地に出て行って神の国の福音を伝えると同時に、行ってきた御業でした。そしてそれを見聞きした人たちは、まさにイエスさまの宣教の言葉を体験したのです。

さて、「集められて、そして遣わされて行く」ということを聞くときに、皆さんはもうお気づきかもしれません。

わたしはこの礼拝のことを思うのです。

恵みにあずかった信者である私たちたちは、週ごとにこの礼拝に集い、神さまの臨在と恵み、御言葉の説き明かしと取り扱いを受け取って、礼拝の最後に、それぞれの場所に遣わされて行くのです。

ルカ10:3 さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。

今の私たちには、あの時の弟子たちよりも幸いです。

十字架と復活の勝利の主が、私たちと常に一緒にいてくださるという約束に与っているからです。だからこそ、私たちは主の重荷を、主と共に負い、遣わされる者となることができることを感謝しましょう。

## II. 主の訓練にあずかる

6:8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないように、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、

6:9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。

6:10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。

これは、あえて貧しさに生きよ…という、いわゆる徹修行とは違います。

一言でいうと信仰の訓練。その宣教の旅路の全ての行程で神さまに信頼する経験をするための訓練です。

### ①必要のすべてを主が与えてくださるという経験

だから宣教のための持ち物が制限されます。一方で彼らはイエスさまから目には見えないけれども確かな権威が与えられて遣わされました。

6:11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話を聞きもしない所があったなら、

イエスさまでさえ、故郷ナザレで福音を伝え、また御業をなさろうとされましたが、そこでは受け入れられないという経験をしました。

弟子たちも遣わされて行ったところで、それぞれが異なる人々、そして反応、経験をしたことでしょう。また使徒行伝やそれ以降、今日に至るまで、遣わされ、福音を証した人たちは、少なからず反対を受けたり、またなかなか人が救われないという状況を

経験したのです。

なぜ福音を伝えているのに、…と、私たちは環境の悪さ、相手の不理解や頑固さ、またつづやきをすぐ口にしやすい者です。

でも、そこで私たちは2つの信仰の訓練、神様への信頼を試されています。

②状況の良し悪しのすべてを主がご存じであると信じることです。

神さまはすべてを御手の壮大なご計画の中に置いておられると信じることです。

③そのすべてを、ゆだねる信仰と、前へ向く信仰を持つことです。

(新共同訳) 6:11 しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようとする所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落とさない。」

それはすなわち、福音宣教の責任と使命を果たしたことのしるしとその応答の責任についてすべてをある意味、神にゆだねておいたことの証です。

…

わたしたちの生涯は、どんな時も神さまに全幅の信頼を寄せるようなものとなるための訓練を受けているのです。

詩篇37:5(新改訳) 「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」

主に信頼せよ。主に信頼せよ。わたしの心にはその言葉が今も響いているのです。

### Ⅲ. 主の福音にあずかる

6:12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、

6:13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。

イエスさまは、神の国の福音を弟子たちにゆだねて遣わし、そして弟子たちは、遣わされたところで、その権威を用いて悪霊を追い出し、癒しを行いました。

彼らは、自らの手でその行ったわざを見てどのように思ったのでしょうか？

それは主からゆだねられた権威のゆえであることを思いながらも、ある意味その経験を通して、色々な意味で自信をつけたかもしれません。

イエスさまは、彼らが後に「誰が一番偉いか」などというような言い争いをするような人たちであることを御存知の上で、つまり不十分な状態でも彼らを遣わしておられました。

のちに彼らは、イエスさまがとらえられ十字架につけられる中で、逃げ出し、隠れ、挫折してしまったことを、私たちは知っています。

そんな彼らは、復活の主を目の前にし、愛と赦しを経験し、そして聖霊に満たされたとき変えられて、本当の意味で弟子としての歩みを始めて行くことができました。

のちにその中のペテロとヨハネが美しの門に置かれていた足の不自由な男を見つめて言った言葉と奇跡が印象的です。

使徒3:6 ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。

するとこの人はいやされ躍り上がって神を賛美したことが記されています。ペテロの言葉は、自分たちには目に見えるお金も力も何もない。しかし、持っているものは素晴らしい。それを上げよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさいと言ったのです。

キリストが下さった権威を宣言し、キリストの癒しの業を行っていったその姿は、かつての、まだ未熟だった時に遣わされた経験が生き、そして振り返るとその時に気づかされたことだろうと思います。

あの時、自分は不十分な者であったにもかかわらず、キリストの権威によって数々の軌跡できた経験を思い起こしていたことの証なのです。

さて、私たちはイエス・キリストを信じた時から神の子とされた新しい人生が始まっています。

信じたらすぐに私たちは、使徒たちのような熟練した信仰の人となるわけではなく、ゆだねられた信仰のあゆみの中で、遣わされているところでの経験を通して、私たちの信仰は成長させていただくのです。

たとえ今が不十分さを感じていても、いいんです！ 神様は、私たちのことを、自分たち以上によくご存じですから。

ですから、今私たちが遣わされているところ、また生きている環境と現場が、神さまに知っていただいていることをまず覚えましょう。

そしてそこで神さまを迎え、賛美しましょう。そして神様からいただくキリストの御名の権威と信仰をもってそこで宣言の祈りをしましょう。

そうすれば、私たちもまた福音の更なる喜びに与ることができるのです。

パウロは、その生涯の中でもっともその喜びを知っている人の一人です。

1コリント9:23「福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。」

皆さんは、信じるなら、信仰によって受け止め行動を起こすならば、あなたもまたこの福音のために、世の光、地の塩として、まさに主に遣わされている人としての福音の喜びにあずかることを知っていただきたいのです。